

コラム③：この夏の予報（5月25日発表の3か月予報）

この夏(2016年6月～8月)の沖縄地方の気温は高い見込みです。

主な理由の1つとして、インド洋熱帯域で海面水温の高い状態が続くことが挙げられます。インド洋熱帯域の海面水温は、エルニーニョ/ラニーニャ現象が発生すると、エルニーニョ監視海域(太平洋中部～東部の赤道付近)の海面水温の変動より2～3か月遅れて変動する傾向があります。

昨年(2015年)11月から12月にかけてピークを迎えた大規模なエルニーニョ現象は、今年(2016年)の春(3月～5月)に終息したと見られ、エルニーニョ監視海域の海面水温が基準値を大幅に上回っていた状態は解消し、この夏はインド洋熱帯域で海面水温が高い状態が続くと予想されています。

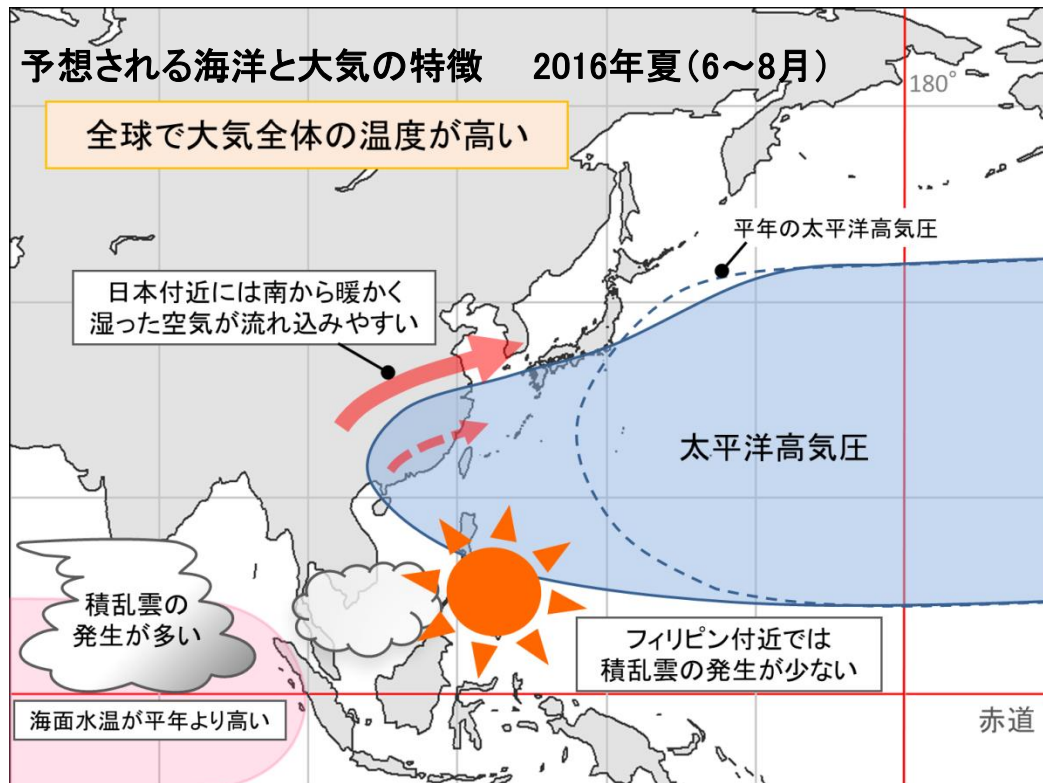


夏季にインド洋熱帯域で海面水温が高いと、インド洋全域で海面気圧が低めになり、赤道に沿って西太平洋まで気圧の低い領域が伸びてくる傾向が見られます。このため、フィリピン東方では、気圧の低い領域に向かって北東風が発生しやすくなり、フィリピン付近を中心に下降流が発生しやすく、積乱雲の活動が不活発になります。日本付近では太平洋高気圧の北への張り出しが弱くなり、北日本を中心に多雨・寡照となる傾向がある一方、沖縄・奄美地方では太平洋高気圧の張り出しが強く、高温となる傾向が見られます(図1)。

図1 インド洋熱帯域の海洋変動が日本の天候に及ぼす影響(模式図)

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/data/elnino/learning/faq/whatiselnino3.html#3>

この夏も、上記のような海洋と大気の特徴が予測されており(図2)、太平洋高気圧の沖縄付近への張り出しが強く、沖縄地方の気温は、「高い」(高い確率60%)と予想しています。一方、降水量については、高気圧が平年より強まる場所が、沖縄の南(フィリピン付近)となる見込みであるため、沖縄付近は南からの湿った空気の影響もやや受けやすいことを考慮し、「ほぼ平年並」(平年並の確率40%)と予想しています。



気象庁マスコットキャラクターはれるん

図2 数値予報結果をもとにまとめた予想される海洋と大気の特徴 2016年夏(6月～8月)

<http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/pdf/pdf3/936.pdf> (最新の3か月予報解説資料)

沖縄气象台提供